

第 22 回 猪名川自然環境委員会 議事概要(案)

1. 日 時 平成 25 年 3 月 26 日 (火) 14:00～15:40
2. 場 所 大阪マーチャンダイズマートビル (OMMビル) 地下 1 階ギャラリー
3. 出席者 池淵委員、斉藤委員、菅原委員、田中委員、松井委員、森下委員 (委員長)
猪名川河川事務所：福岡副所長、(調査・品質確保課) 莊司課長、横山係長、
(工務課) 岸本課長、中澤係長、(管理課) 松井課長 (占
用調整課) 松寺課長
河川環境管理財団：今井、宝藤
傍聴：4 名
4. 議 事 (1) 第 21 回自然環境委員会・第 11 回総合土砂管理委員会での指摘とその対応
(2) 北河原地区河原再生試験施工に関するとりまとめ
(3) 平成 25 年度工事予定箇所の環境への影響と対策

5. 結果

(1) 第 21 回自然環境委員会・第 11 回総合土砂管理委員会での指摘とその対応

- 土砂移動を考慮した河道掘削と自然再生の検討、平成 19 年度に実施した河床変動予測の検証についての対応方針について確認が行われた。

(2) 北河原地区河原再生試験施工に関するとりまとめ

- 今後実施していく河原環境の再生を目指した切り下げについて、試験施工の結果を反映した断面を提案し、了承された。
- 提案した切り下げは、平成 25 年度に予定している北河原地区の高水敷掘削と調整し、掘削範囲・形状等を再検討した上で、実施可能であると判断できれば、2 回目の試験施工として実施する。
- 試験施工として実施した場合は、モニタリングを行い、礫河原が維持できる条件、湿地生植物群落が成立する冠水頻度・時期を検証していく。
- 礫河原の維持・再生と冠水頻度・無次元掃流力・砂礫の粒径との関係について、試験施工で確認できたことと今後の改善点を簡潔にまとめることが望ましい。
- 流入土砂や外来種等について、過去に礫河原が形成されていた当時と現在の状況を比較整理し、持続可能な礫河原を創出するための要素・要因を明らかにすることが望ましい。
- 試験施工地全体における植生の経年変化において、落葉広葉樹林の面積が大きく変化したり、突然出現したりしている。調査データの経年的な信頼性を確保しておく必要がある。

(3) 平成 25 年度工事予定箇所への影響と対策

- 平成 25 年度に工事を予定している「椎堂地区」「北河原地区」「北伊丹地区」「東久代地区」「川西・池田地区」の河道掘削等の工事、高木井堰下流部における河道内樹木の伐採について、計画内容および構造検討部会からの意見が説明され、委員による確認が行われた。
- 北伊丹地区河道掘削他工事は、工事範囲に位置するヒメボタルの密集地を次世代のヒメボタルまでが維持できるように、地盤を改変しない範囲を専門家に聞き取りを行う。また、その範囲は、次の構造検討部会で報告し、委員による確認を行う。
- 椎堂地区河道掘削工事は、カヤネズミをはじめ様々な生物が生息しているオギ群落を広がりを持って保全することが望ましい。また、やむを得ず掘削する場合は、近傍に代替地を設けることが望ましい。
- 東久代地区河道掘削他工事は、可能な限り水陸移行帯を設け、エコトーンを再創出する仕掛けが必要である。特に両生類にとって非常に重要である。
- 川西・池田地区河道掘削工事は、治水安全度を確保しながら、現況の岩を残すような工法を採用することが望ましい。景観が単純になるということは、生息場所としても非常に単純な環境となるため、生息する動植物も単純になってしまう。
- 外来種の駆除は、単独で検討・実施している。河道掘削工事において、外来種が生育しにくい構造も検討していく必要がある。

(4) その他

- 猪名川の目指す自然景観について、かつての姿を取り戻すのか、現在の流況等に合わせたものにするのか、検討を始める必要がある。
- 現状の猪名川において、上流から多くの土砂を供給することは困難である。さらに、短期間での河道掘削であり、非常に厳しい環境づくりである。河道掘削で発生する土砂を置き土して流下させる取り組みを検討してはどうか。
- かつて（昭和 30 年代）の猪名川の河原を再生するという目標の妥当性について、土砂管理を含めた検討が必要である。現在の河道掘削は、砂州河道を創出していくうえで多様性よりも直線化に向かう方向であり、目標を再検討すべきである。
- 多くの人々は、猪名川の変化を知らない。過去の猪名川の状況、生態系や人との関わりなど、現在の猪名川へと変化した要因と改善していくための工夫などについて、一般の人々にわかりやすく説明できる資料の作成について検討する。

以上

第 15 回 猪名川自然環境委員会 構造検討部会 議事概要(案)

1. 日時

平成 25 年 8 月 13 日 (火) 現地指導 : 13:00~16:55 会議 : 17:05~18:15

2. 場所

現地指導 : 平成 25 年度工事予定箇所 (下表参照)

会 議 : 猪名川河川事務所 2 階会議室

現地視察の行程

時間	場所	自然環境委員会での工事名
13:00~13:10	JR 尼崎駅 (集合・出発)	(第 14 回構造検討部会・議事概要の確認)
13:25~13:55	3.8k 付近左岸堤防天端	・椎堂地区河道掘削工事
14:05~14:30	6.6k 付近右岸堤防天端	・北河原地区河道掘削工事
14:50~15:25	7.2k 付近左岸わいわいワンド付近	・北伊丹地区河道掘削他工事
15:35~15:50	8.8k 付近左岸高水敷	・東久代地区河道掘削他工事
16:13~16:45	余野川合流点	・余野川合流点落差工簡易魚道設置工事
16:55	猪名川河川事務所 (到着)	

3. 出席者

委員 : 村上委員 (部会長)、池淵委員、竹門委員、田中委員、服部委員

猪名川河川事務所 : 大谷事務所長、福岡副所長、(調査課) 文字課長、横山係長

(工務課) 岸本課長、本岡係長、中澤係長、(園田出張所) 畠山所長

(公財) 河川財団 : 今井、宝藤、井上

(株) 建設環境研究所 : 山崎、本田

4. 議事

① 第 14 回構造検討部会 議事概要の確認

② 平成 25 年度工事予定箇所の自然環境への配慮事項

5. 結果

(1) 第 14 回構造検討部会 議事概要の確認

○ 議事概要 (案) は、成案として了承された。

(2) 平成 25 年度工事予定箇所の自然環境への配慮事項

1) 椎堂地区河道掘削工事

- 現況植生は、既往植生調査（平成 22 年度事後調査）の結果と大きく異なっている。また、左岸側の現況植生は良い状態とは言えない。そのため、工事予定範囲および平成 22 年度に実施した河道掘削範囲を対象として、植生調査（相関植生図作成）を実施する。
- 平成 22 年度に実施した河道掘削箇所について、植生調査結果を基に、設計思想との比較等により現状を把握する。
- 掘削の断面形状は、右岸 3.8k 付近の水際のように、裸地が形成され、水面下から緩傾斜となる断面が望ましい。
- 河道掘削の高さおよび形状、ヨシ・オギ群落の保全範囲は、上記の結果を踏まえて決定する。なお、平成 22 年度の掘削範囲を対象とした再掘削は実施しない。
- 治水上必要となる掘削土量を上回る掘削を行い、その掘削土砂を河床に置き、河川環境の改善を図る対策を検討する必要がある。

2) 北河原地区河道掘削工事

- 河道掘削範囲において、冠水頻度や出水時の掃流力を増加させるとともに、新たな瀬の創出を図るため、高水敷の切り下げ幅を広くし、掘削土砂を掘削範囲や三ヶ井井堰下流の河床に河川横断方向へ置くなど、水陸双方の形状を変化させることについて検討が必要である。
- 当該地区は、川幅が広く、掘削の自由度も高いものと考えられることから、土砂供給による河川環境の改善を図る対策を優先的かつ実験的に試行すべきである。
- 猪名川は、土砂供給が減少している中で、河道掘削によって直線化に向かっており、土砂管理の観点からも懸念している。上記のような対策について、局部的な範囲を対象とした土砂動態のシミュレーションを実施しながら、置く土砂の量や位置、形状など、具体的な方法を検討すべきである。

3) 北伊丹地区河道掘削他工事

- ヒメボタルの保全対策は、科学的根拠を持って対応すべきであり、ヒメボタルの生息に関する基礎調査が必要である。
- ヒメボタルの環境は不明である。また、当該地域に生息しているヒメボタルは、他地域と違う状況であり、生息・繁殖範囲に存置されているガラも必要な環境のひとつであると考えられる。そのため、事務局の提示した現況維持範囲は、現状のままで維持することが望ましい。
- わいわいワンドの水辺に生育しているヤナギを残すなど、ヒメボタルの繁殖地と水辺を一体的に保全するよう、掘削範囲を検討すべきである。
- 現況維持範囲を拡大する場合は、地域住民および専門家と十分に調整を図ったうえで範囲を決定する必要がある。
- 現況維持範囲に生育しているアキニレやエノキは、伐採を行わず、低林で管理すべきである。低林管理は地域住民との連携が望ましい。

4) 東久代地区河道掘削他工事

- 河道掘削高は、水陸移行帯の創出を図る観点から、高木井堰改築後の水位を条件として設定する。
- 創出を図る水陸移行帯に隣接する河岸の緩傾斜化等は、将来の検討課題である。

5) 余野川合流点落差工簡易魚道設置工事

- 当該落差工における魚類等の遡上状況、生息状況および余野川の流況などを把握する必要がある。
- 当該落差工に設置する簡易魚道は、落差工の隔壁を部分的に切り下げ、左岸側の石張り部の張り替えによってプールを設ける構造が望ましい。

6) 川西・池田地区河道掘削工事

- 河道掘削にあたって存置する岩は、貝類等の生息環境、景観、利用などの観点から、検討する必要がある。

7) その他

- 裸地面積など、河道の状態・特性を航空写真で把握すべきである。

以 上